

令和4年度

# やまじ

第59号



山梨県保育協議会ではホームページに情報をアップしています。

◎県保育協議会ホームページを活用しましょう！

皆様の声を反映して作っていきたいと考えております。コロナ禍でインターネットでの情報の発信、共有、活用が進んでいます。この機会に、皆様もアクセスしてみてください。ご協力お願いいたします。

<http://www.yamanashi-hokyou.jp/>

右の二次元コードからもアクセスできます。



## 山梨県保育協議会

- 発行所 山梨県保育協議会  
甲府市北新1-2-12  
☎(055)254-8610
- 発行責任者 高橋 恭子
- 編集者 山梨県保育協議会 保育部会
- 印刷所 有限会社東和プリント社
- 発行 令和5年1月

## 少子化時代の新たな子育て支援を創造しよう

山梨県保育協議会 会長 廣瀬 集一

今年ほど子育て/子育て支援関連の記事を新聞が掲載している年はありません。2021年保育事故は最多2347件で、登園バスなど車内への「鍵閉じ込み」事故が連続して起きています。深刻な人手不足が背景にあり保育士等の待遇改善が急務であるとされています。コロナ禍による急激な少子化が施設の運営にも大きく影響し、経営を圧迫しています。プッシュ型・アウトリーチ型の新たな子育て支援の仕組みが必要となり、育児で困難を抱える家庭の「無園児(未就園児)」に対し親子孤立や虐待を回避するために、国が本格的な対策に乗り出すこととなりました。「こども家庭庁設置法」及び「こども基本法」が成立し、令和5年4月から内閣府にこども家庭庁が設置されます。山梨県では、保育士・保育所支援センターを6月に立ち上げ、潜在保育士や新任保育士の就業支援を行っています。山梨県保育協議会は希望する園に希望する時期に入所できるこの仕組みに全面的に協力していきます。永年勤続の職員の皆様には表彰制度を整えて感謝の意を表し、処遇改善のための認定研修を実施・充実させていくなど、保育・幼児教育に関わる皆様の応援を充実させています。さらに、山梨県/市町村へは「意見・要望書」を提出し、配置の改善、処遇改善、障害児保育をはじめとする特別保育事業の充実、子育て支援事業のさらなる展開などを求めています。県保協ホームページでは大切な情報や研修案内などを掲載し充実を努めています。

コロナ禍で改めて認知されたエッセンシャルワーカーとしての保育従事者の重要な役割を踏まえ、超少子化時代の保育所・認定こども園の子育ち・子育て支援の在り方が求められています。

## 保育部会の役割

山梨県保育協議会保育部会長 高橋 恭子

コロナ禍に入り3年。まだまだ模索が続く中、ウィズコロナではありますが、少しずつ日常が戻りつつあります。子どもたちは以前と変わらぬ笑顔を見せながら、日々過ごしていることと思います。

前部会長からバトンを受け、県の保育部会長という大役とともに全国保育士会の常任委員を務めてまいりました。様々な会議や研修に参加していく中で、多くの学びを得ました。全国各地の保育の現状を知ることで、自分の保育を振り返り、自分自身や園全体のこれからやるべきこと、保育に対する新しい見方、考え方を学ぶことができました。その中での気づきについてお伝えします。

一つ目は保育部会をはじめ、組織の役割の重要性です。さまざまな分野での学びを受け、その学びを現場に伝えたい！という思いに駆り立てられました。保育部会や各ブロックの組織の役割として情報発信を担っていくべきだと感じました。コロナ禍で参集が厳しくなっていますが、可能な限り集まって、話をし、近況や課題を共有していくことが組織強化となり、保育の質の向上につながっていくのだと強く思いました。

二つ目は研修の大切さです。今は多種多様な研修ツールがあります。先生方が一歩立ち止まり保育を振り返るもの、先生方の心のメンテナンス、また情報収集の場にもなります。モチベーションを保つためにも新しい学びは必要です。ぜひ活用していきましょう。

最後に役を受けるにあたり、所属園の園長先生や先生方にご理解いただき、保育協議会会長や事務局、役員の先生方など多くの皆様に助けていただきました。心から感謝申し上げます。



## 特別寄稿

## 新たな姿の待機児童ゼロの実現に向けて

山梨県子育て支援局子育て政策課長 細田 尚子

保育士や保育教諭の皆様におかれましては、日頃より、子どもの健やかな成長を第一に、教育や保育に御尽力をいただき、心から感謝申し上げます。

また、新型コロナウイルス感染症の終息が見通せない中、感染防止対策を徹底しながら保育を継続していただいていることに重ねて感謝申し上げます。

さて、本県は、時期を問わず希望する保育所等へ円滑に入所できる、「新たな姿の待機児童ゼロ」の実現に向け、様々な取り組みを行っています。

昨年度は、一定期間県内の保育所等へ就業した場合に返還免除となる保育士修学資金貸付制度を創設し、2年目となる本年度は多くの学生に利用していただいているところです。

また、本年6月には、やまなし保育士・保育所支援センターを開所し、潜在保育士等の就職に関する相談・研修・斡旋等の支援のほか、保育現場における働き方改革の支援など、保育士が働きやすく、定着しやすい労働環境の整備にも取り組んでいます。

これらの施策は、保育関係団体、幼稚園関係団体、保育士養成校、その他関係機関の委員で構成された山梨県保育等人材確保・定着等協議会や、その中に設置した入所円滑化等促進部会において検討を行い、実現した施策です。

県では今後も「新たな姿の待機児童ゼロ」の実現に向けた取り組みを鋭意進めて参りますので、保育士、保育教諭の皆様におかれましては、引き続き御支援と御協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

## やまじ発行にあたり

山梨県保育所保護者連合会会長 三浦 覚

今回、保護者連合会会長の大役に就かせて頂き、日頃の活動内容や子ども達の事により目を向け、考える機会が増えています。このような経験はあまりないので、良い機会を与えて頂いて感謝しております。

コロナ発生から3年が経ち、その生活にも慣れつつあります。

保育所でも、子ども達のために何か出来ないかと試行錯誤してもらい、手探りではありますが、感染症対策を行ったうえで、いろんな活動を行って頂いております。出来ないからやらないのではなく、立ち止まっただけは何も出来ないと、状況を考えながら少しずつ前に進もうとしているのを感じます。

しかし近年、バス置き去り事件、虐待や事故など、全国的に子ども達の悲しい事件や事故が増えているように思います。それらのニュースを目にした時胸が痛むと同時に、「我が子は大丈夫なのだろうか」と不安な気持ちに押し潰されます。

子ども達の笑顔を決して絶やしてはなりません。子ども達の笑顔は私達にとって、力や元気を与えてくれる癒しであり、掛け替えのない「宝物」です。子ども達を守るのは大人です。安心・安全の環境を作り、子ども達が遊んだり、学んだり出来るように成長を見守るのが大人としての責任だと感じます。そして、子ども達が頼れるのは大人です。子ども達は小さいうちは頼れる人は大人しかいないのです。コミュニケーションを取り合うことで子ども達の心の成長に繋がります。私も子ども達に教えられる事もあり、大人も成長できるチャンスを与えられているのだと実感します。

最後になりますが、日頃お世話になっている保育所の先生方におかれましては、感染症対策や事故防止などの子ども達の安全を確保し、保護者の皆様が安心して預けられる環境を作って頂き、心より感謝申し上げます。これからも保育所と保護者会との連携を深め、子ども達のより良い環境作りを考えていければと思います。今後ともよろしくお願い致します。ありがとうございました。

甲 府 市

## 保育士として“今”思うこと

国母保育園 安 富 美 帆

コロナ禍での保育がスタートし3年近く経ちました。年度当初、感染者数は減少どころか増大し、保育所内のクラスター発生が各地で起こりました。施設内外、感染対策を行なっても減ることはなく、職員の業務が増え時間と人手が足りない。そんな日々を過ごしながらの保育が当たり前でした。「マスクは鼻まで隠してね。」と過ごしてきたマスク生活。夏の時期になると、「マスクは外して遊びましょう。」と今度は熱中症の心配等、子ども達を守る感染対策ですが、私たちは何が出来るのだろう、これが正解なのか、安心安全な環境が作れているのか、様々な葛藤や悩みを抱えながらコロナ禍の保育を進めてきました。自園での行事は、参加人数の制限はあるもの子ども達の経験や体験は成長に欠かせないと内容を検討し実施してきました。保護者の方々のご理解とご協力があるからこそ出来ることであり、改めていつも温かく見守って頂けていることに感謝しかありませんでした。互いに一番は“子ども達のために”との思いから、制限ばかりするのではなく、だったらこうしよう！と少しでもコロナ前の日常生活をと願いながら、子ども達の変わらない笑顔をみることが出来ています。

ウィズコロナでの生活となり、ワクチン接種や現状に合わせた感染対策が進み、一日でも早くコロナが終息することを願い“子ども達のために”今、私たちに出来ることを、、、これからも保育に取り組んでいきたいと思えます。

中 巨 摩

## 思い出す言葉

竜王中央保育園 青 柳 宏 優

「この子らを世の光に」

私はこの言葉を学生のときに知り、保育に携わる中で大切にしている。これは障害者福祉の実践者として日本を代表する糸賀一雄氏の有名な言葉であり、障がいのある子たちに対し、社会の光を照らしてあげようと哀れむのではなく、子どもたちは一人一人が自己実現をしていく存在であり、一人の人間として社会の光となり、輝くことを願ったものである。これは障がいの有無に限らず、誰に対しても当てはまる。もし、「を」と「に」の位置が違い、「この子らに世の光を」となると、似ていても意味は全く違うものになり、思い上がった態度になってしまう。

保育士になり十数年経ち、経験を積み、保育では私の声掛けで子どもが思うように動いてくれたり、活動が予定通り進むことも増えた。しかし、それは子どもたちが私に従っているだけで、自己を発揮できていないのではないかと疑問に思うときもある。保育士になったばかりの頃は不器用ながらももっと子どもたちの気持ちに寄り添おうと努力していたではないか。このように悩んだとき、この言葉を思い出すと、改めて子どもたちの声を丁寧に聴こうと原点に戻り、上手に保育を進めるのではなく、目の前の子どもたちと向き合う保育に取り組むことができる。いつまでも初心を忘れず、私自身も光になれるよう勤しんでいきたい。



## 南アルプス市

## 復帰して感じたこと

櫛形中央保育所 伊藤美奈

育児休業を経て復帰が間近に迫る時期「両立の自信がない」「子どもが体調を崩したら…」など、緊張や不安が絶えない日々でした。そして始まった4月。

想像していた以上にバタバタな毎日でした。復帰後の仕事は毎日がとにかく必死で1日が短いような長いような感覚でした。そして家庭もバタバタ。そんな慌ただしい毎日でしたが、子どもたちの順応性には驚かされました。担当している子どもたちも抱っこをすると泣き止むようになり、我が子も担任の先生に抱っこを求め泣かずに1日過ごせるようになりました。

復帰して感じたこととして同職ながら、保育園(所)のありがたさを感じました。親である私と一緒に子どもの成長に寄り添い、褒めたり認めたりしてくれる先生方に感謝の気持ちでいっぱいです。この経験を経て、保護者が安心して子どもを預けられる場所を提供することが大切であり、そのような場所を用意していきたいと感じました。子どもの成長を共有し、保護者の気持ちに寄り添い、保護者の意思を尊重しながら信頼関係を築き、子どもだけではなく保護者の支えにもなれるよう、これからも努力していこうと思います。

## 山梨市

## 正直は、時として、ドキドキを生む。

光明保育園 柴田夏希

ある日の出来事。お迎えに来たママが「〇〇ちゃんが保育園に行っている間に金魚さんが1匹お空に行っちゃったんだよ…」と、最近飼い始め、かわいがっていた金魚の旅立ちを丁寧に伝えた。私も毎日金魚の話聞いていたので、ショックだろうな…と思っていた時、その子から出た言葉は「え!! じゃあそれたべれる?!」なんと!! 子どもの発言には毎回おどろかされます。

また別の日。私のエプロン、髪型に敏感な子どもたちは「今日は新しいおようふくだね、大人っぽい」等と、十分大人な私を褒めてくれます。ショートでおろしていた髪を一つに結んだ日には、おませな女の子たちは「先生、かわいい♡」と、すぐに反応。すると、一人の男の子が「なんかちょっと…」と言いかけてやめたのです。この歳の男の子は実に正直…。なんかちょっと…なんて言いかけてやめられたらたまったものではありません。女の子のかわいい♡が口グセ化していることなどどう知っているのです! おそろおそろ真相を確かめるべく「なんかちょっとなに…?」と聞いてみると「なんかちょっとやせてる!!」でした。ふう〜。ハラハラしましたが、一安心。本当、子どもの発言には毎回おどろかされます♡

## 笛吹市

## 「公立保育所等トップセミナー」を受講して

かすがい西保育所 平塚さやか

9月6日(火) 県保育協議会より、全国保育協議会主催の「公立保育所等トップセミナー」を、オンデマンド配信で受講させて頂きました。公立保育所の担う役割や、保育をめぐる国の動向。全国保育協議会の取り組みなど、どの研修プログラムも興味深く、初めて知る事もありとても勉強になりました。中でも、プログラムⅣの「働きやすい環境づくりと人材育成について」(講師 和洋女子大学

矢藤誠慈郎氏)の講義は、すぐにでも取り組んでいきたい内容でした。以下抜粋。

〈保育の質向上へのマネジメントとしてのPDCAサイクルを繰り返し、スパイラルアップしていく。組織目標を共有するには可視化や、定期的な周知、日常的なコミュニケーションなどの具体的な取り組みが必要。同僚性の文化を築いていく。(同僚性とは、協調性とは異なり、問いかけ合い・学び合い・高め合い・支え合う組織文化のこと)リーダーシップスタイルを統制型から分散型に。トップダウンからボトムアップにしていく。学び合う組織という環境づくりにしていく、リーダー自身のスキルアップが必要。)

以上簡単な形ですが、報告させていただきます。保育者不足や離職防止が課題となっている今、働きやすくやりがいを感じられる職場環境づくりが必要と考えます。学びの機会を頂き感謝しています。今後も日々精進し、より良い保育をみんなで一緒に取り組んでいきたいと思ひます。

峡 南

## 今、大切に思うこと

市川三郷町立大塚保育所 伊藤美保

新型コロナウイルス感染拡大の観点から、今まで通りの行事の開催が難しくなって三回目の夏が過ぎました。日々の検温、消毒、マスクの着用、手洗い等様々な対策を行っています。

例年と違った保育環境の中、行事のあり方について考える機会となりました。子ども達にとって行事とは、今まで一生懸命取り組んできた事を保護者の前で発表し、褒められ、認めてもらう事の喜びを感じ、満足感や大切に思ってくれている事を感じる事が出来る瞬間だと思ひます。また、保護者にとっても家庭で見える事の出来ない子ども達の姿を見ることが出来、子ども達の頑張りや成長を感じられるものだと思ひます。私達にとっても、子ども達の成長を保護者と共に喜び、子ども達と励まし合っ取り組み、その成果を喜び合う事で成長に繋げていく大切なものだと感じています。

コロナ禍で、行事のあり方について考える機会となり、子ども達が様々な体験をする事の重要性を改めて感じました。例年通りとはいきませんが、子ども達が毎日楽しく、保育所で多くの経験を重ね、成長していけるよう、コロナ禍での気付きや学びを大切にしながら今後に生かし、よりよい保育を目指していきたくと思ひます。

蕪 崎 市

## 蕪崎市保育所連合会の活動を通して

蕪崎市立蕪崎東保育園 望月光美

蕪崎市保育所連合会は、公立保育園三園、会員数五十九名で構成されています。四月の定期総会の際、承認された執行部員を中心に事業計画に基づき、各園の意見を集約し、評議員会で協議、検討した内容は次の通りです。

### 講演会

アンガーマネジメントファシリテーターの仲澤宏一先生による『アンガーマネジメント 怒りのコントロール』と題し、ご講演をいただくことが決定しておりましたが、新型コロナウイルス感染症が急拡大したことにより、やむを得ず今年度は中止となりました。

### 講習会

蕪崎市消防署の職員の指導の下で救急救命講習会を実施しました。心肺蘇生法やAEDの操作方法などを学びました。また、十二月には、『クリスマスアレンジメント』をテーマに蕪崎市の生花店様にご指

導をいただく予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止対策の為、生花の配布のみとなりました。

### 研究会

保育園ごとに研究テーマを決めて取り組み、研究内容を発表しました。園全体で学び合い、取り組むことで一人ひとりの意識の向上につながりました。また、各園の発表を聞くことで自己研鑽に繋がり有意義な時間となりました。

以上が令和四年度の活動内容です。今年度新たに『連合会のあり方について』の話し合いを設けました。保育園の統合や会員数の減少は各市町村でも課題になっていると思います。韮崎市保育所連合会のこれからをしっかりと話し合いたいと思っています。

今年度、私自身も多くの先生方との出会いをとおして貴重な経験や勉強をさせていただきました。微力ながら大役を果たすことができたのは市の福祉課の方々をはじめ園長先生・会員の皆様のご指導とご協力によるものと心より感謝申し上げます。

## 北 杜 市

### 保護者とともに

北杜市立わかば保育園 加藤美紀

憧れの保育士となり、現在二人の子育てをしている。保育士としての保育と24時間365日の子育てが全く異なることを痛感している。日々、家事や育児に追われながら母として、主婦として、そして保育士として仕事をする中で、すべて完璧にこなさなければいけない私自身の神経質な性格に悩み苦しむことがたくさんあった。悩み、不安があるとすぐにインターネットで調べ、多くの情報に困惑すると同時に、誰に、そしてどこに相談すればいいのかわからずに悩むことも多くあった。保護者もそれぞれに子育ての悩み、心配事があることと思う。自分自身の経験を役立て、時には相談相手として力になりたいと思っている。話しやすい雰囲気をつくり、傾聴するよう心がけている。

北杜市は自然豊かな恵まれた環境の中で子育てをすることができ、自然環境を求めて大都市から移住する方も年々増えている。自然の中での学びは子ども達の今後の人生に大きな良い影響があると考えられる。森や土の香り、四季折々の季節を肌で感じるができる環境の中でたくさんの経験、成功体験を積み重ねてほしい。そして、保護者のよき相談相手、先輩ママとして今後も関わっていきたい。

## 富士吉田市

### 健やかな体づくりへ

富士吉田市立第五保育園 天野理恵

「今日も元気に遊びましょう。」

年長児の朝の呼びかけに応える子どもたち。毎朝行われている体操後の一コマです。

富士吉田市では令和三年『転倒予防都市』を宣言しました。転ばない体づくりを実現する為、一日三食バランス良く食べ、一日一回の運動、一日一回の整理整頓という一三一運動を推奨しています。中でも一日一回の運動として市民愛唱歌に合わせた『ここ富士体操』を勧めており、市内の保育園においても朝の体操として取り入れ、体を動かしています。現代の子どもたちは運動不足で、以前より怪我をしやすくなっているとの指摘もあることから、効果的な取り組みだと思っています。また、今年の市民夏まつりでは市内の年長児が体操や踊りを映像で披露しました。

現在も行事の中止や延期、目まぐるしく変化する感染症対応に悪戦苦闘する毎日が続いています。しかし、子どもたちが楽しく過ごせるよう日々の保育に工夫を凝らし、子どもと一緒にワクワクを作っていくと頑張る先生方の姿を見ると、前向きな気持ちになります。子どもも大人も心と体の健康を守りながら、楽しんでいけたらと思います。

南都留郡ブロック

感謝

大石保育所 宮下 真由子

私が保育士になり数年目の秋、初めての出産を経験しました。何事も「わたしがやらなければ」「自分でなんとかしなければ」という性格な上、当時、保育士としての至らなさに自信が持てずにいた私に、病院や検診で必ず言われた「お母さんは保育士だから大丈夫だね。」という言葉がプレッシャーとなり、誰にも言えない大きな不安に襲われていたことを今でも覚えています。

それでも家族や友だち、いろいろな方に助けられ、日々が過ぎ、仕事に復帰した時にも職場の方々にたくさんフォローして頂く中で「助けてもらうことは悪いことではない」と思え、「すみません」の代わりに「ありがとう」を伝えたいと思うようになりました。今では肩の力を抜いて仕事と子育てを楽しめるようになり、支えてくれたすべての方に感謝の気持ちでいっぱいです。

近年、コロナ禍といわれる時代が続く制限ある生活の中ですが、変わらず笑顔を見せてくれる子どもたちに元気をもらいながら、これからも感謝の気持ちを忘れず、また、自分も周りの人たちを支えていける立場になれるよう日々の学びを大切に、よりよい保育を目指していきたいと思えます。



令和4年度 山梨県保育協議会保育部会役員

- 部会長 甲斐市立敷島保育園 高橋 恭子
- 副部会長 南アルプス市立南湖保育所 小尾 美香  
 笛吹市立かすがい西保育所 平塚 さやか  
 北杜市立白州保育園 西部こども園 向井 美智子
- 幹事 国母保育園 安富 美帆  
 甲斐市立竜王中央保育園 藤田 実紀  
 光明保育園 柴田 夏希  
 韮崎市立韮崎東保育園 望月 光美  
 身延町立静川保育所 久保田 浩美  
 富士吉田市立第五保育園 天野 理恵  
 富士河口湖町立船津保育所 中村 恵子